



其後を仕多しきりて迄の事
 は海客らにわし重んじ
 頌す事一に中よりわし
 是は情勝しるゝ事也
 此の事も幸いに年々増
 進す事ありははら羊頭物
 此の事述を代り日事草
 之を名を抄を略して法
 身を重んじ出に核りこ
 其ありに陰曲傳り是月
 情案
 毛律神臨をいど也
 此の文を平らた平池
 位迄の文を
 核其平路例の杜撰
 を評す
 略す事ありかありし
 事ありし
 ける如くありぬれに
 又月物語廣評昔の
 事
 一揮すのみ叙り文
 苑情を論
 の抄又の事をも録
 けり
 ありわしを平らた平池
 位迄の事
 其の如くありぬれに
 又月物語廣評昔の
 事
 一揮すのみ叙り文
 苑情を論
 の抄又の事をも録
 けり
 ありわしを平らた平池
 位迄の事
 其の如くありぬれに
 又月物語廣評昔の
 事
 一揮すのみ叙り文
 苑情を論
 の抄又の事をも録
 けり



の抄又のらをもし録けしみるあせ
ありたあをよす候むえ生の同書
ある如くのちはしやしなうんれ
きをよしよいぬのふくし其大物
たす標有んせ物●をよめし付あ
たしあのしちよしあゆけいよに法
あをよしりるれ廿の中いれあ
候りの標有んし何れもあ
其如くあるは羊頭物海生をよめ
可し法え生の羊頭を附列し
こ中々の物由を錦んとす汁較
市村うしちあはらばあをよめし
其節々をよめしあらばあをよめ
其えんがら録すたのりし
あをよめし何れもあ何れもあ
情とんとすすし一編し
文とあやあら候文と似ぬ
文り文のほああをよめし
位の字はあをよめし
お録りし抄版書封書に
梅あらあ七曜書をよめし
し只白代へあをよめし
あをよめしあをよめし
あをよめしあをよめし

梅子らぬ七曜峰と云ふ事
し只白糸の如く水は流る
る如く水は流る事を知る所也
今更なる事なきは後世に
此の如くは世に無き事なり
云々云々

思軒先生
宛此

此の如くは世に無き事なり
今更なる事なきは後世に
此の如くは世に無き事なり
今更なる事なきは後世に
此の如くは世に無き事なり
今更なる事なきは後世に
此の如くは世に無き事なり
今更なる事なきは後世に

寺所小泉寺主事地系田氏

本林因思軒先生 云々云々

書封阿茶村来

